2019年9月15日

福音書からのメッセージ

あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。
（ルカによる福音書15章4節）

今日のたとえを、なぜイエス様は語られたのでしょうか。それはファリサイ派の人々や律法学者たちが不平を言っていたからです。「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と。ほっとけばいいじゃないか、そう思うかもしれません。でも彼らはいつも、自分たちは正しい、自分たちこそ救われるべきだと思っていました。また彼らは、罪人や徴税人と付き合うことはしませんでした。汚れた人と一緒にいると、自分たちまで汚れると信じていたからです。しかしイエス様は、そのような人たちと一緒になって、食事までしていたのです。

その不平に対して、イエス様が語られたたとえが羊飼いのたとえでした。イエス様は言われます。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか」と。

これを聞いていた人たちは多分、「そんなことはしない。そんな一匹を捜すなんてありえない」と首を振ったと思います。たしかに羊は大切です。でも群れからはぐれたということには、それなりの理由があります。弱ったから、ケガをしたから、ついていけなくなったからはぐれたのです。仲間に見捨てられたのです。

その一匹がいることで、自分たちまで危険にあうかもしれない。巻き添えはくいたくない。だから群れからはぐれていくその一匹に気づきながら、99匹の羊は何食わぬ顔で羊飼いの後をついていった。普通であればそれで終わりです。

イエス様はしかし、言われます。その羊飼いは、いなくなった一匹を見つけ出すまで捜し回るのだと。この羊飼いの姿は、神さまの姿です。神さまとはどういうお方なのか、神さまはどのようにわたしたちに関わってくださるのか、そのことをイエス様は語っておられるのです。

わたしたちにも迷い、うずくまり、歩むことができなくなるときがあるでしょう。自分の弱さや罪を感じ、どうすることもできずにブルブルと震えている。まるで一匹の羊のようなわたしたちのもとに、神さまが捜しに来て下さるのです。神さまの方からわたしたちのもとに来られるのです。

ここで覚えておきたいことがあります。それは羊が心を入れ替えたから、見つけてもらったのではないということです。神さまが一方的に捜されるのです。わたしたち一人一人のことが大切だから、何よりも優先して、他のことなどほっといて、捜し回ってくださるのです。

その神さまの愛を感じ、大きな喜びの中に招き入れられることで、わたしたちは変えられるのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/